九州北部豪雨被災地（東峰村）先遣報告

＜東峰村被災状況＞

平成 29 年 7 月 29 日（土）、九州北部豪雨被災地（東峰村）へ先遣隊として入りました。以下、現地の報告です。当日は、すでに復興支援ボランティアとして東峰村で活動を行っている旭長崎県支部長、川浪長崎県支部事務局長と合流すべく東峰村を目指して車を進めました。大分自動車道杷木 IC で高速を出て国道３８６号線を西へ向かい、夜明け三叉路を左折し大肥川沿いを北上したのですが、大量の土砂で埋まった田んぼや崩落した橋などがあり深刻な被害状況でした。

旭さん、川浪さんと合流後は、一緒に被災家屋の泥出し作業を行いましたが、当該家屋の方は、「家に帰ってからの方が怖いです」「雨が降ったり、大きな音がすると怖くて眠れない」と言っておられました。また、旭さんの話では「暑さのせいで作業は３時間が限界です」「無理をすると熱中症で倒れる人が出ます」とのこと。

被災家屋の片付けが終了した後はボランティアセンターへ戻って一休みした後、旭さんの好意で東峰村の宝殊山川沿いを北上し被災地を案内して頂きました。宝珠山川沿いの県道を北上したのですが、被害は深刻で、道路に大きな岩が転がっており、道路沿いの家屋が濁流に飲み込まれているのを目の当たりにしました。

JR 筑前岩屋駅周辺では、線路が大きく曲がっており橋の後すらわかりません。聞けば、このあたりは棚田として有名とのことですが、わずかに棚田らしきものがわかる程度です。

２０１１年の紀伊半島大水害で甚大な被害を受けた五條市、十津川村、天川村、野迫川村を思い出さずにはいられませんでした。

８月２５日（金）夜から２８日（月）早朝にかけて奈良県防災士会として災害復興支援として現地へ入るべく準備を進めていますが、出来る限りの支援活動をすべきと決意を新たにしました。

＜日本防災士会九州地区連へ支援金を手渡す＞

東峰村での活動を終えたあと、熊本県支部は日田市で復興支援活動を行っているとのことなので宮下熊本県支部長と合流すべく東峰村から日田市へ向かい、私たち奈良県支部からの支援として九州支部連（代表：宮下熊本県支部長）へ活動資金をお渡しました。

＜今後、東峰村では＞

現地で、偶然、東峰村社会福祉協議会梶原会長とお話をする機会に恵まれました。
会長の話では、「被害状況からして今後もボランティアの皆さんのお力をお借りしたい」とのことでした。

ただ、サテライトが中学校になっていることから、二学期の授業再開もあり、情報収集を行いながら現地の状況に応じた支援を行うことが必要と思われます。

（報告：植村信吉防災士）